

第13課 天国、教育、永遠の学び

【暗唱聖句】

「しかし、このことは、「目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は御自分を愛する者たちに準備された」と書いてあるとおりです。」第一コリント 2:9。

【日曜日・死者の運命】

死んだら終わりと言いますが、聖書は死んだ後の世界について教えています。永遠の命に至る者と、永遠の滅びに至るものとに分かれるのだと語られています。もちろん、イエス様を信じる者には永遠の命が繰り返し約束されています。有名なヨハネ 3:16 では、「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」と書かれてあり、またヨハネ 6:54 では、「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる」と約束されています。これは聖書の最大の約束と言っても良いでしょう。

ガイドの 89 ページに、「永遠の命は十字架の光に照らすときに理にかないます」と書かれています。しばしば人が死んだとき「天国に行ったんだね」と慰め合います。しかし、その根拠はどこにもありません。また様々な宗教が永遠の命を語っているかもしれませんが、十字架ぬきに永遠の命はありえません。「どこから登っても頂上にたどり着く」とある人は言います。つまりどんな宗教でも同じ結果が待っているというわけですが、永遠の命は頂上の遥かかなたにあり、そこへ行くにはイエス・キリストを通らなければならないのです。永遠の命を与えることができる方は、永遠の命を持っておられる方だけだからです。しかし、そのイエス様もただで永遠の命を与えることはできませんでした。ご自分の命と引き換えだったのです。イエス様の命以上に価値のあるものはありません。だから、悔い改めてイエス様を信じる者は、誰でも永遠の命が約束されるのです。

【月曜日・新しい生活】

イエス様を信じれば永遠の命が与えられると言われても、それを喜ばない人たちもいます。それはこの世は辛く大変なのに、それが永遠に続くというのは嬉しくもなんともないというわけです。これはもったもなことです。ただ聖書が約束している永遠の命とは、この世界のものではありません。それは新しい世界でのことであり、そこには涙も死も悲しみも嘆きも労苦もないのです。最初のもものは過ぎ去ったからです。

「彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のもものは過ぎ去ったからである。」黙示録 21:4

しかし、この新しい世界が始まる前に大きなことが起こります。それはこの今の世界が突然激しく滅びさるということです。

「主の日は盗人のようにやって来ます。その日、天は激しい音をたてながら消えうせ、自然界の諸要素は熱に熔け尽くし、地とそこで造り出されたものは暴かれてしまいます…その日、天は焼け崩れ、自然界の諸要素は燃え尽き、熔け去ることでしょう。しかしわたしたちは、義の宿る新しい天と新しい地とを、神の約束に従って待ち望んでいるのです」第一ペテロ 3:10~14

この罪の世界は滅び去らなければなりません。その後新しい世界が始まるのです。そのため聖書は次のように勧告しています。

「このように、すべてのものは滅び去るので、あなたがたは聖なる信心深い生活を送らなければなりません」

ん。神の日の来るのを待ち望み、また、それが来るのを早めるようにすべきです…」第一ペテロ 3:11, 12

【火曜日・そして私たちは知る】

「わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔とを合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる」第一コリント 13:12

科学の発達と共に、今まで知らなかったことが次々に明らかにされています。それでも私たちは知らないことのほうが圧倒的に多いのです。宇宙の果てはどうなっているのか、海の底はどうなっているのかなど、知りたくても調べようがないことがいくらでもあるのです。そして、神様についてもまだまだ知らないことがたくさんあります。神様は永遠であり、全知全能であり、愛と憐みに満ちた方であることは知識としては知っていますが、おぼろげです。天国に救われた後、私たちはこの世界の知らなかったことが明らかにされて、さらに深く広く学んでいくことになります。そして聖書が約束しているのは、神様と顔と顔とを合わせて見ることになり、今は一部しか知らなくとも、そのときにはもっとはっきりと神様を知るようになるということです。

【水曜日・来世の学校】

「わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです」第二コリント 4:17, 18

人生の患難は一時的なものであり、それによってもたらされる永遠の栄光に比べれば軽いものだとパウロは言います。見えるものはどんなものでもやがて過ぎ去ります。だから一時的なのです。しかし、神様が永遠です。目には見えませんが、確かに存在しています。その永遠に存在する神様に目を注ぐことです。そうすると、今まで見えなかったものが見え、分からなかったことが分かるようになってきます。それは想像もしていなかったようなすごい世界です。この世のどんな苦しみも取るに足らないように思えるほど、圧倒的な世界です。この世界を見るための方法は、神様を信じることです。信仰だけがこの見えない世界を見えるようにしてくれるのです。

【木曜日・偉大な教師】

イエス様は偉大なる教師でした。言葉だけでなくふるまいや行動すべてを通して、私たちに模範を示してくださいました。そして今でも聖書を通して私たちに教えて下さっています。確かに、罪の世界と神様の聖なる世界はあまりにも異なります。しかし、信仰の深まりと共に神様の世界への理解も深まって行くものです。エレン・G・ホワイトは次のように言っています。

「永遠の年月が経過するにつれて、神とキリストについてますます豊でますます輝かしい啓示がもたらされる。知識が進歩していくように、愛と尊敬と幸福も増していく。人々は神について学ばば学ぶほど、ますます神の品位性に感嘆するようになる。」各時代の希望下 P467

問6

「あなたの胸にあるこの傷はどうしたのか」と問われると、「それは友人の家で受けたものだ」と答えるであろう」ゼカリヤ 13:6

ゼカリヤ 13:6 の御言葉は、偽預言者が責められている場面です。異教的に胸に傷をつけて恍惚となるようなことをしていたのでしょう。それで何の傷かと問われると、「それは友人の家で受けたものだ」と嘘をつくわけです。神様を知るために体を傷つける必要などありません。神様と共に生き、御言葉から聞き、それを実行していくことで、ますます真理が開かれてくるのです。